

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No.103
平成20年1月7日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

パソコン室での授業

今、パソコン室での授業では、

・コンピュータスキルの授業 ・作品作り ・情報についての授業

などを行っています。一つ一つが別々に行われている場合もありますが、たいていは一つの作業でいくつかの要素が組み合わさっています。(時間の関係で、毎年同じように行っているわけではありません)

スキルの授業では、コンピュータを扱うのに知っているると便利、あるいは、知らないだとコンピュータと仲良くできない(コンピュータに使われてしまいかねない)知識について、実習を伴って覚えます。

基本は、画面からの情報を読み取ること、マウス操作、そして文字入力です。

また、画面構成、クリップボード、ショートカットキー、エクセルでの表作成といったコンピュータの性質についての説明なども行います。インターネットでの検索方法なども、ここに含まれます。

作品作りでは、それまでに学んだコンピュータスキルを使って、新たなスキルを覚えながら、更に

- ・何のため(誰に見せる、見てもらうため)の作品作りか
- ・その目的のために、どういう工夫が必要か、注意することはどこか

といった、情報を扱うこと(相手意識)についても、内容に盛り込んでいます。

情報について、というのはかなり漠然としていますが、「情報教育」(相手意識)、情報モラル(著作権、個人情報、誹謗中傷、信憑性など)を視野に入れた簡単な説明をして、そのことについて子ども自身が考えることができるような授業を心がけています。高学年が中心ですが、2～3年生でも、メールや物語作り(インターネットの掲示板に似ています)などでは、文字だけのコミュニケーションでの注意すべき点について実感できるように話をしています。

このように、パソコン室での授業では、ひとえにコンピュータスキルだけを学んでいるわけではなく、これは、コンピュータを道具として使えるようになると同時に、使って何かするときには気がつけたいことまでを、わかるようになるためにあるのだと理解しています。

どの教科でもコンピュータを道具として安全に使っていき、下地作りでありたいと思っています。